

長崎県西南海岸地域における海岸・港湾災害の発生数について

熊本工業大学 工学部 正会員 橋村 隆介
 熊本工業大学 工学部 学生員 高橋 健二
 熊本工業大学 工学部 学生員 嘉数 隆幸

1. はじめに: 長崎県は九州本島側と五島列島、平戸島、壱岐および対馬を中心とする島々では、地形的特性が非常に異なるため、出現する波浪についても異なった性質を示すものと思われる。

本稿では、上記における九州本島側の長崎県西南海岸の海岸・港湾災害の地域特性を明らかにするために、過去5年間(1980~1984年)の災害発生についての分析結果について述べるものである。

2. 海岸別地域特性について: 本研究では海域の波浪特性を考え、有明海側、橋湾、西彼杵・長崎の両半島の西海岸、大村湾、北松浦半島各周辺の5海域に分割し、分析を行った。尚、○、△および□印とそれらの数値は、台風、豪雨および低気圧のそれぞれに原因をもつ被害発生数である。

2-1 有明海周辺: この地域は、有明海に面する北は小長井町より南は南有家町に至る沿岸地域である。この地域での台風による災害は被災数として21件であり、豪雨による場合が12件、低気圧による場合が0であった。主な被災地は、小長井町周辺と有明町周辺の沿岸地域であり、台風および豪雨のそれぞれの被災合計数が14件と7件で、被災数の半数以上を示した。特に、小長井港では台風および豪雨の被災数ともにこの地域内で最高の値を示した。

2-2 橋湾周辺: この地域は南々西方向から波が浸入してくる湾で、東は口え津町より西は野田崎町俣島先端に至る沿岸地域である。この地域での台風による被害は被災数として23件であり、豪雨による場合が15件、低気圧その他による場合が0であった。被害は江ノ浦漁港から太田尾港に至る地区と、飛子および京泊の両漁港に集中している。これらの地区で台風による場合が15件、豪雨による場合が11件で、被災数の半数以上を示した。特に、豪雨による被害は、江ノ浦漁港から太田尾港に至る地区に集中しており被災数が8件であった。

2-3 西彼杵・長崎の両半島の西海岸周辺: この地域は、北は西海町北端より南は野田崎町南端に至る沿岸地域で、一部島しょを含んでいる。この地域は、波向として北西より南西方向の波浪が考えられ、特に南西方向の波はうねり性の大きい波が来襲することと予想される。この地域での台風による被害は被災数として55件であり、豪雨による場合が28件、低気圧による場合が0であった。被害は、台風による場合が崎戸港と相川漁港より高島に至る沿岸各地で41件の被災数で、この地域内での台風による被災数の75%にあたる。一方、豪雨による場合は長崎湾内、外海町の各港に集中しており被災数の約68%であった。最も被災頻度が高かったのは、崎戸港の10件であった。

2-4 大村湾周辺: この地域は、大村湾および佐世保湾の湾岸地域である。この地域に発生する波は、外海からの波の浸入が少なく、大村湾ではほとんど考えられないため、湾内で単独に発生する波によるものと思われる。この地域での台風による災害は被災数として30件、豪雨による場合が20件、低気圧による場合が0であった。この内、佐世保湾内で台風による場合が6件、豪雨による場合が5件であった。大村湾内では、被害発生地点の地域分布に特徴が現れた。台風による被害は、大村湾の東入江と琴海町の両沿岸地域に集中し被災数として21件、一方、豪雨については北部地区の早岐および川棚の両港と南部地区沿岸に集中し11件であった。

2-5 北松浦半島周辺: この地域は、北松浦半島とその周辺島しょを含む東は佐賀県境より南は佐世保市高後崎に至る北松浦半島西岸の沿岸地域である。この地域は波向として西方向より高波は発生しにくく、南からの侵入波が北からの季節風による高波が来襲する可能性が考えられる。この地域での台風による被害は被災数として22件であり、豪雨による場合が9件、低気圧による場合が4件であった。本稿において、初めて低気圧による

被害が発生している。台風による被害は、この地域内の台風による被災数の73%が江迎港から調川港に至る沿岸で発生している。一方、豪雨による被害は、北松浦半島沿岸の神崎漁港以北の地域全般に亘り発生している。しかし、低気圧による被害は北西方向に湾口をもつ三代港にだけ発生している。

3. 結語: 海岸・港湾の災害の発生数の地域分布について分析を行ったが、それらの結果にある種の傾向があることが判明したが、今後さらに詳細な分析を行う必要がある。

最後に、長崎県の災害担当の方々に協力を賜ったことを感謝いたします。

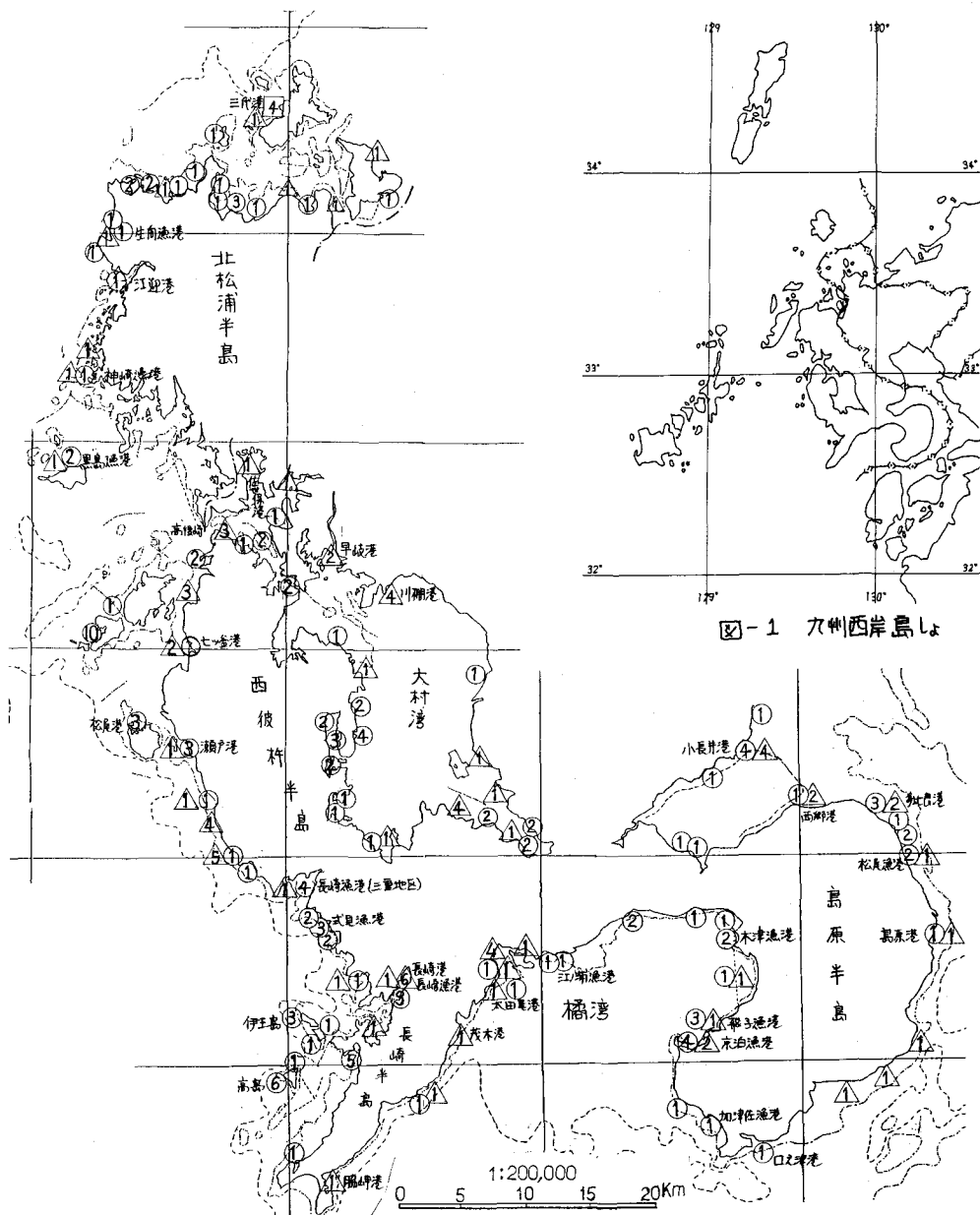


図-1 九州西岸島しょ

図-2 長崎県西南海岸